

## Oil Market Review 22第14号

2022年（令和四年）

7月8日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カチドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

6/23～6/29のNYMEX・WTI先物市場は、104.27～111.76ドルの範囲で推移した。

6月30日は、欧米主要国の利上げによる景気後退懸念の高まりに加え、四半期末と独立記念日の連休前が重なり、持ち高調整の売りや利益確定の売りも出て、大幅続落した。ただ、この日のOPECプラス閣僚会合(WEB)で、8月も従来の64.8万b/dの減産緩和(増産)に止めることができ確認され、9月以降の増産方針は示されず、需給の先行き不透明感が残った。8月限の終値は前日比4.02ドル安の105.76ドル。

週末7月1日は、前日の反動、安値拾いの買いが入るとともに、前日のOPECプラスの慎重な増産姿勢、経済制裁によるロシア産石油の生産削減懸念から、反発した。さらに、ノルウェイの油田労働者のストライキにより、生産減少懸念もあつた。8月限の終値は前日比2.67ドル高の108.43ドル。

4日は、独立記念日の休日につき休場。

連休明け5日は、世界的な金利引き上げによる景気後退懸念が広がり急反落、5月10日以来で、100ドルを割った。為替市場では、ドル高が進行し、原油先物の割高感が出た。さらに、米国株式市場の暴落により、関係者のリスク回避姿勢が高まった。8月限の終値は前日比8.93ドル安の99.50ドル。

6日は、世界的な景気後退懸念が拡大し、続落した。ただ、午後にかけては、安値拾いの買いも入り、下落幅は圧縮された。8月限の終値は、前日比0.97ドル安の98.53ドル。

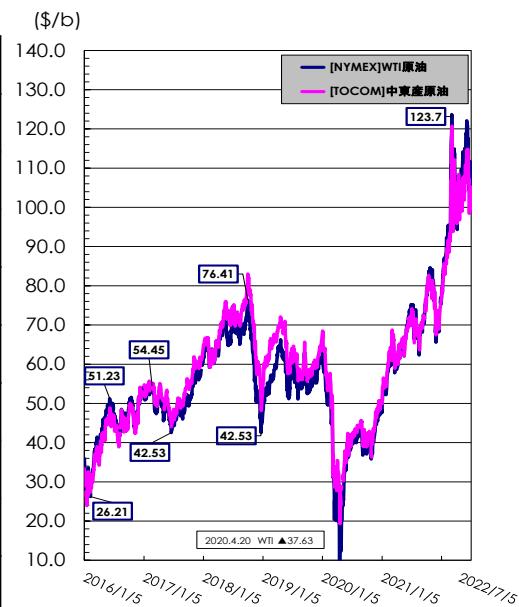
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、6月23日～29日の間、105.70～113.00ドルの範囲で推移した。6月30日102.10ドル、7月1日104.80ドル、4日108.70ドル、5日109.50ドル、6日101.30ドルで推移した。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	6/26 ~ 7/2	2,608	▼ -107	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	67.8	▼ -2.8	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	7/2	10,268	▲ 599	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/4	104.25	▲ 3.58	▲ 31.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	7/5	99.50	▼ -10.07	▲ 26.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	117.35	▲ 2.87	▲ 48.23
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	95,558	▲ 3,436	▲ 47,954
②ドル換算レート (¥/\$)	"	129.48	▼ -1.53	▼ -19.99	
外国為替TTSレート (¥/\$)	7/4	135.98	▼ -0.37	▼ -23.82	

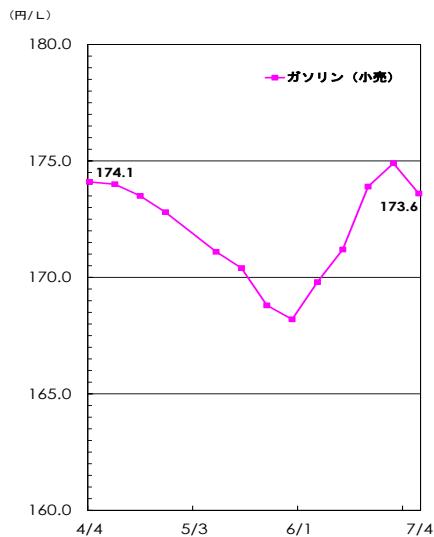
為替は、6月23日～29日の間、134.61～136.20円の範囲で推移した。6月30日136.68円、7月1日135.99円、4日134.98円、5日 136.14円、6日135.69円で推移した。

財務省が7月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、6月中旬の原油輸入平均CIF価格は、95,558円で、前旬比3,436円高、ドル建て117.35ドルで前旬比2.87ドル高、為替レートは1ドル/129.48円。

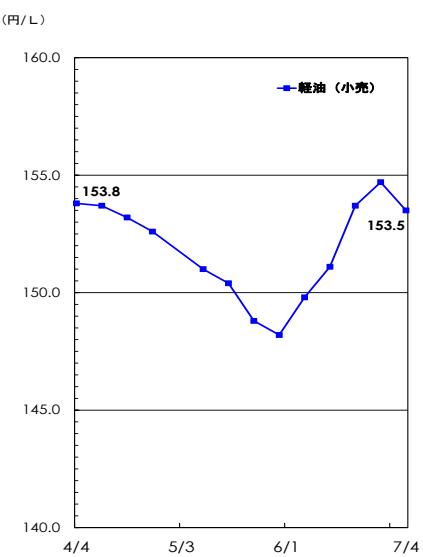
そのような中で、7月4日時点の価格は、ガソリンが前週比1.3円の値下がり、軽油も同1.2円の値下がり、灯油は13円の値下がり(18㍑ベース)であった。ガソリンは5週ぶりの値下がり、軽油も5週ぶりの値下がり、灯油も5週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は173.6円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は40.8円となった。



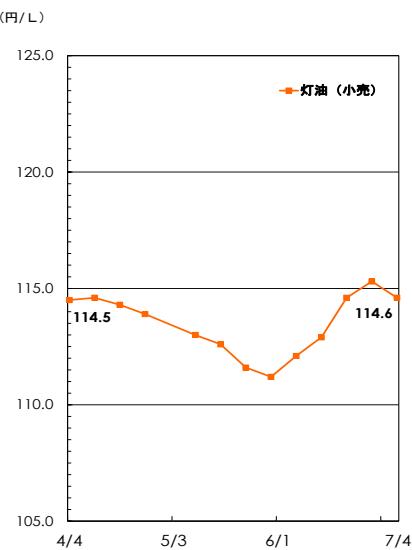
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/26 ~ 7/2	808	▼ -76	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	918	▲ 121	▲ -
	輸出	"	40	▼ -5	▼ -
	在庫	7/2	1,467	▼ -149	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/28 ~ 7/4	79.8	▼ -3.3	▲ 12.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/28 ~ 7/4	85.9	▲ 0.3	▲ 20.1
		(TOCOM/中部)	80.0	► 0.0	▲ 12.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/4	173.6	▼ -1.3	▲ 16.1
	※業転、先物価格は税抜き価格				



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/26 ~ 7/2	661	▼ -114	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	572	▲ 19	▼ -
	輸出	"	139	▲ 91	▲ -
	在庫	7/2	1,332	▼ -51	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/28 ~ 7/4	78.6	▼ -4.6	▲ 9.0
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/28 ~ 7/4	92.7	▼ -1.3	▲ 23.5
		(TOCOM/中部)	7/4	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/4	153.5	▼ -1.2	▲ 16.1
	※業転、先物価格は税抜き価格				



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	6/26 ~ 7/2	105	▼ -20	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	70	▲ 24	▼ -
	輸出	"	50	▲ 50	▲ -
	在庫	7/2	1,390	▼ -16	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/28 ~ 7/4	77.9	▼ -3.0	▲ 8.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/28 ~ 7/4	80.0	▲ 0.2	▲ 15.3
		(TOCOM/中部)	79.0	▼ -2.0	▲ 11.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/4	114.6	▼ -0.7	▲ 18.0
	※業転、先物価格は税抜き価格				



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油

米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫情報の発表は、4日が独立記念日のため、翌日の予定。

EIAによると、ガソリンの小売価格は、7月4日時点で前週比10.1セント値下がりの1ガロン4.771ドル(171.2円/ドル)と3週連続の値下がりであった。ディーゼル小売価格は、システム障害のため、引き続き、発表されなかった。

ペーカーヒューズ社によると、7月1日時点の米国内稼働石油掘削装置は前週比1基増の595基と5週連続の増加となった。

### 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年6月26日～7月2日に休止したトップ能力は84.2万バレル/日で、前週に対して4.1万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は260.8万kLと、前週に比べ10.7万kL減少。前年に対しては24.1万kLの増加。トップ稼働率は67.8%と前週に対して2.8ポイントの減少、前年に対しては6.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェットが増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/8.6%減、ジェット/9.5%増、灯油/15.9%減、軽油/14.7%減、A重油/12.8%減、C重油/13.7%減。今週のC重油の輸入は0.5万kL(前週比0.5万kL増)。軽油の輸出は13.9万kL(前週比9.1万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で全ての油種で増加した。前年比ではガソリン、ジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は91.8万kL(前週15.1%増)と3週振りで増加した。ジェット8.9万kL(前週88.7%増)、灯油7.0万kL(前週53.6%増)、軽油57.2万kL(前週3.5%増)、

A重油19.2万kL(対前週38.3%増)、C重油18.2万kL(対前週9.7%増)。

(単位:千kL)

	今週 (6/26 ~ 7/2)	前週 (6/19 ~ 6/25)	前週比
ガソリン	918	797	▲ 121 (15%)
ジェット燃料	89	47	▲ 42 (89%)
灯油	70	46	▲ 24 (52%)
軽油	572	553	▲ 19 (3%)
A重油	192	139	▲ 53 (38%)
C重油	182	166	▲ 16 (10%)
合計	2,023	1,748	▲ 275 (16%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

### 2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月2日時点の在庫は全ての油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは146.7万kL、前週差14.9万kL減。前年に対しては69.9万kL少ない。

灯油は139.0万kL、前週差1.6万kL減。前年に対しては36.5万kL少ない。

軽油は133.2万kL、前週差5.1万kL減。前年に対しては37.9万kL少ない。

A重油は64.7万kL、前週差5.4万kL減。前年に対しては10.1万kL少ない。

C重油は175.8万kL、前週差2.8万kL減。前年に対しては14.0万kL少ない。

(単位:千kL)

	今週 (7/2)	前週 (6/25)	前週比
ガソリン	1,467	1,616	▼ -149 (-9%)
ジェット燃料	754	803	▼ -49 (-6%)
灯油	1,390	1,406	▼ -16 (-1%)
軽油	1,332	1,383	▼ -51 (-4%)
A重油	647	701	▼ -54 (-8%)
C重油	1,758	1,786	▼ -28 (-2%)
合計	7,348	7,695	▼ -347 (-4.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月28日～7月4日の指標原油価格は前週比で値上がりがりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは、2.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額38.4円を加えたコスト上昇額40.4円に、補助金40.8円(計算上46.6円になるが、35円を超える値上がり分は半額補助)が支給されることから、

次週(7/7～7/13)の元売会社の実質的な卸価格は0.4円の値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月28日～7月4日の製品スポット市況は、6月21日～27日平均と比べ、先物・ガソリン、先物・灯油を除いて、他の取引・油種で値下がりした。

直近週(6/28～7/4)の陸上スポット価格平均値は、前週(6/21～6/27)比で、ガソリンは3.3円の値下がり、灯油は3.0円の値下がり、軽油は4.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(6/28～7/4)に、前週(6/21～6/27)比で、ガソリンは4.8円の値下がり、灯油は1.4円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は1.3円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/㎘)	
[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/28～7/4)	前週 (6/21～6/27)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー 79.8	83.1	▼ -3.3
	灯油 77.9	80.9	▼ -3.0
	軽油 78.6	83.2	▼ -4.6

(TOCOM)		(単位: 円/㎘)	
[期近物/終値 [平均]]	今週 (6/28～7/4)	前週 (6/21～6/27)	前週比
先 物 価 格	レギュラー 85.9	85.6	▲ 0.3
	灯油 80.0	79.8	▲ 0.2
	軽油 92.7	94.0	▼ -1.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/28～7/4実績値) (単位: 円/㎘)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -3.3	▲ 0.3	▼ -1.5
灯油	▼ -3.0	▲ 0.2	▼ -1.4
軽油	▼ -4.6	▼ -1.3	▼ -2.9
A重油	▼ -4.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

7月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.3円安い173.6円、軽油も同1.2円安い153.5円、灯油は18.1%ベースで同13円安い2,063円(1%ベースでは同0.7円安い114.6円)。ガソリンは5週ぶりの値下がり、軽油も5週ぶりの値下がり、灯油も5週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは5府県、横ばいは1県、値下がりは41都道府県だった。全国最安値は岩手県の166.8円、その次は宮城県の167.8円であった。他方、最高値は沖縄県の184.5円だった。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比0.7円高)、横ばいは奈良県、値下がりしたのは長野県(同4.7円安)だった。

次回調査時(7/11)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位: 円/㍑)				
(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/4)	前週 (6/27)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー 173.6	174.9	▼ -1.3	08/8/4 185.1
	灯油 114.6	115.3	▼ -0.7	08/8/11 132.1
	軽油 153.5	154.7	▼ -1.2	08/8/4 167.4

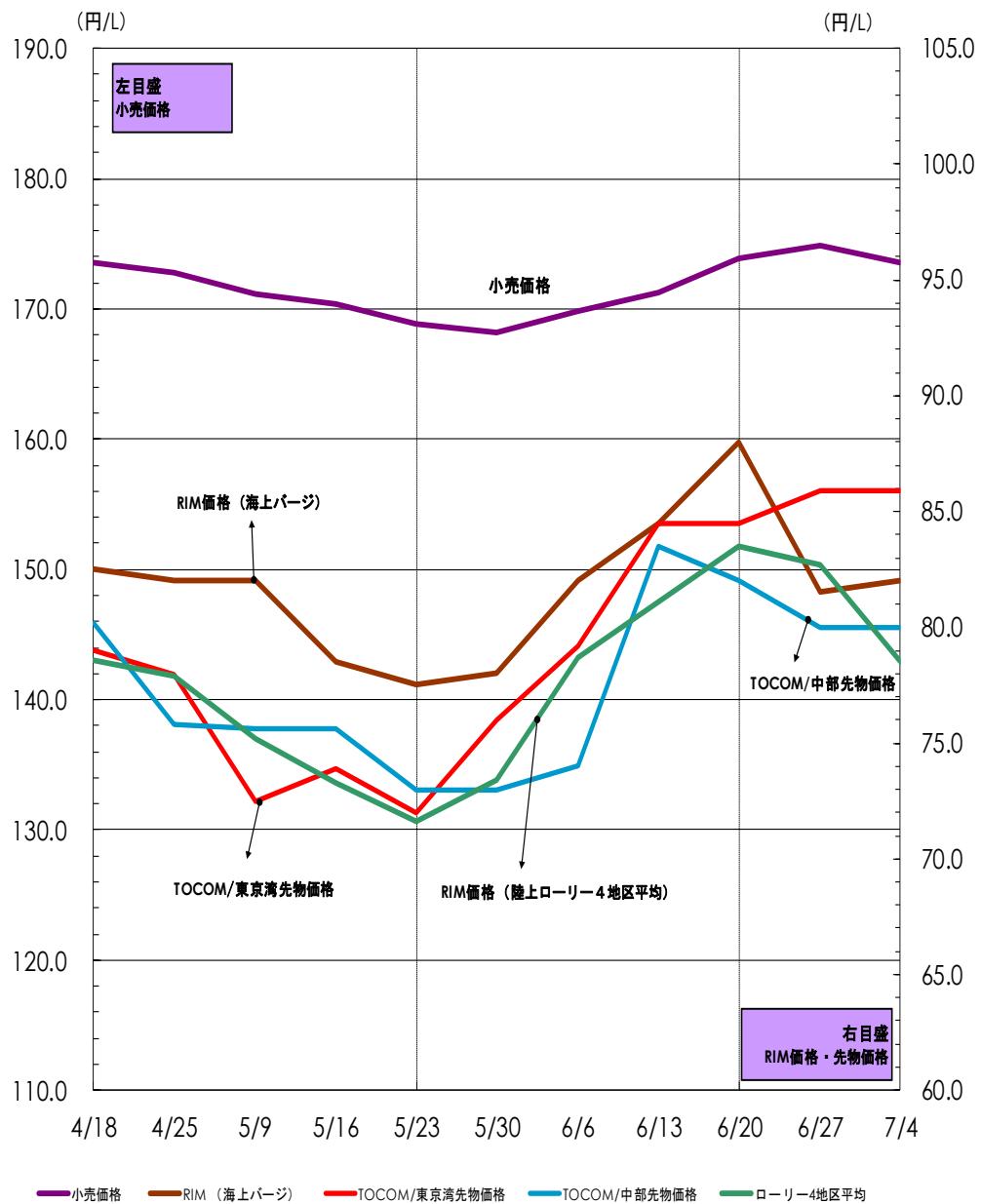
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

## ガソリン価格推移

(2022/4/18 ~ 2022/7/4)



## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2022第15号）の公表は、7/15（金）14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。